

第7回 第三次西東京市地域福祉活動計画 進行管理委員会記録

日 時 平成29年9月26日(火)

午後7時～8時30分

場 所 田無総合福祉センター第1会議室

<出席委員>伊藤正子委員、榎本めぐみ委員、多田尚子委員、三輪秀民委員(以上4名)

<事務局>池田正幸(事務局長)、丸木 敦(総務課長)、鵜野浩至(総務課主幹)

小平勝一(福祉活動推進課長)、妻屋良男(福祉活動推進課長補佐)

浜名幹男(福祉支援課長)、小口浩司(法人運営係長)

<会議次第>

1. 事務局長あいさつ(会長欠席のため代理として事務局長よりあいさつ)

事務局長:本日は、お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。出席委員は少ないが、重要な会議なので、皆さまから意見をいただきたい。特に Action の部分でご意見をいただきたい。

後ほど、第四次西東京市地域福祉活動計画についても説明をさせていただきたい。アンケート調査も実施しているところであり、関係機関との懇談会も開催する予定である。

また、第三次計画の取り組み状況の確認ということで、本日皆さまから貴重なご意見をいただき、2月に取りまとめる進行管理表を踏まえながら、次期計画策定に反映していきたい。

<議 題>

1. 前回議事録の確認

副委員長:会議録について修正などの意見はあるか。

事務局:今日、ご意見が無いようであれば9月29日(金)までに事務局へご連絡いただきたい。

☆期日までに修正等の連絡が無かったことにより、記録案を確定稿とする。

○事務局より配布資料の確認をする。

2. 平成28年度 各推進部会の取り組みに対する「Action～今後改善出来ること」

(報告及び意見交換)

副委員長:資料に基づき、人材部会から議論したい。事務局より説明してほしい。

(1)人材部会

○事務局より説明がある。

副委員長:本日の資料は、要約版となっており、本来は A3 版のものになる。特に意見をいた

だきたいのは、Action の部分となる。

委員：取り組みがどのようなものなのかがよくわからないので説明をお願いしたい。

事務局：まずは人材リストを作成し、人材登録をしている人が、どのような場でどのような活動を出来るのかを紙に落として、今までの部会長のコーディネート動きを可視化し、取り組みを明確化していくことが必要である。

西東京ボランティア・市民活動センターのようにコーディネートの拠点ということではなく、部会長のように活動者と人や施設等をつなぐハブになることは有効であると考えている。地域において、人と人とのつながりを仲立ちすることが出来るのではないか。

委員：コーディネーターの役割を担う人材をどのように育てるのかについて入れた方がよいのでは。

事務局：部会の中でも、特定の人頼みではいけないという話が出ており、こうした話を部会の中で出来るようになってきている。

副委員長：特定の人の中にある人材リストを資料としてまとめることと、ソフト面での動きを整理して、いろいろな人が担えるようにしていくことが課題である。

委員：ソフト面をどのように広げるのが課題であるとした方がわかりやすい。

委員：コーディネートが出来る人を育てるということか。

事務局：コーディネート出来る人を育てることも必要ではあるが、社協にはボランティア・市民活動センターがあるので、そことの連携と、役割分担等の整理が必要だと考えている。それも Action に加えて行きたい。

委員：活動のメニュー、人材リストを早く作り、情報を提供することが必要なのではないか。市の出前講座などは内容がメニュー化されており、居場所に来られる人のニーズをとらえて企画をする際に、そのメニューを見て交渉することが出来る。

副委員長：西東京ボランティア・市民活動センターとの連携により人材活用をよりしやすくするようなプログラムづくりの検討をすること、また、まとめ役について検討することを付け加えてほしい。

委員：人材リストを求めていたが、なかなか資料として出してもらえていない。

事務局：名簿を入手することが出来た。ボランティア・市民活動センターの人材リストとの整理についても進めていきたいと考えている。

(2)情報部会

○事務局より資料の説明をする。

委員：フェイスブック（以下「FB」という。）の作成については、3部会の話し合いの上で、各部会の管理者を決めたので、今後この取り組みは進展していくと思う。

副委員長：今のご意見は Action の中に入れることか。

委員：課題というよりも、取り組んでよかったことの中に、盛り込まれるものである。

事務局：今、議論していただいているのは、平成28年度の取り組みについてのまとめであることから、今いただいたご意見は平成29年度の進行管理に反映していく。

委員：表中の表現として「方策を検討する（こと）」と「方策について検討する（こと）」は、どちらかに統一した方がよいのでは。

事務局：「方策について検討すること」に統一する。

(3)居場所づくり部会

○事務局より資料の説明をする。

委員：運営の引き継ぎをすることとは、どのようなことか。

事務局：人材部会と同様に、後継者を育てるということを想定している。

委員：それであれば、後継者という具体的な表現の方がわかりやすい。

副委員長：短いセンテンスの中にも具体的に表記する。「社協がきちんと関わる」という表記も「社協からのサポートを強化する」という表現にした方がよい。

委員：いくつかの居場所を見てきての感想であるが、居場所を上手に運営しているところは、立ち上げ時には社協がメインに引っ張るが、活動が軌道に乗ると上手に引いていっている。いつまでも社協が全面に立つのではなく、サポート側にまわることが、居場所づくりのポイントであるのでは。

委員：実際に運営している者としては賛成しにくい。私たちの活動は地域福祉活動計画から生まれた活動であり、活動者は計画の推進部会員として集まった人たちなので、中にはこんなはずではなかったというメンバーもいる。実際に手を引かれている方もいる。運営者や担い手がいなくなったら、活動自体も無くなってしまう。現在は社協がかなり協力してくれているが、社協がどんどん手を引いていってしまうとどのようになるか。運営はそんなに簡単なものではない。

委員：手を引くというのは全く関わらなくなるというものではない。そうした点でも、後継者になる人を育てていくことが大切であると考えている。社協も、たくさん居場所が出来てきたときに、今のような支援体制を取ることが難しくなるかもしれない。

委員：地域活動拠点の活動者の支援や、サロンの立ち上げ講座を企画して、ある程度のところまでやっていかないと、人材が育たないと思う。今は、実際に走り回って支援していただいているが、それが社協の仕事ではないか。

事務局：全面的に社協が手を引くということではない。自分たちで主体的に運営していこうと思っただけことが社協の役割である。実際に活動されている方々が困っているときに、社協職員が関わりをもつというように、関わり方の質が、その時々によって変わっていくということだと考えている。そのようにしていかないと、活動の数が増えていったときに、全ての活動者に対して対応が出来なくなる。

副委員長：活動計画が出来てから、取り組みの段階としては初期の段階であるということで、全面的な立ち上げのサポートを社協にさせていただかなければいけないが、計画が進んでいくうちに、関わり方が変化していくのではと感じた。

新しいサロンが今後も出来ていくので、社協として人材の確保や育成、活動者への側面的な支援を強化していくということも、うまく整理して入れていただきたい。

委員：計画に基づいて出来た活動と、自分からやろうと考えて出来た活動との温度差があるのではないか。社協の活動拠点で行う活動ということでは社協が全面的にバックアップしないといけないのではないか。この計画で、社協が活動拠点を作るというものであれば、全面的なバックアップが必要なのでは。

事務局：社協の活動拠点では、様々なサロン活動が展開されている。
社協の活動拠点は、住民活動の場として提供している場であり、そこで交流が出来たり、生活課題を発見したり、解決に向けて取り組んだりする場である。
そうした場であることが一つの切り口であり、個々の活動を社協の拠点で行なうことにより、それぞれの専門範囲の活動と他の活動グループとの交流を促進することで、今までとは違ったことに取り組めるだろうということが、社協の活動拠点の意味として考えている。

この内容は、前回ご意見をいただいた社協活動拠点の苦情に関して削除した部分について、社協の活動拠点で苦情等があった場合には、社協が住民に理解を求めることというご意見をもとに記載したものである。

副委員長：社協が行なっている拠点だから苦情があった時にサポートするのか。逆にそうではない場所で活動するときには、サポートしてもらえないのか。

事務局：立ち上げ時については、バックアップをしながら取り組むということは考えている。

委員：⑦については、活動拠点そのものの課題であって、居場所づくり部会とは関係がない。

このように記載されていると居場所づくり部会に対する苦情があったように思われてしまうのでは。

副委員長：削除してもよいのではないか。

事務局：⑦の項目については削除する。

3. 各部会の進捗状況について（平成29年6月以降）

副委員長：事務局より説明してほしい。

○事務局より説明する。

事務局：（人材部会）

6月には、フェイスブックにどのような記事を掲載するのかということについて検討した。

7月には、把握している人材リストをどのように可視化するかについて検討している。人材部会のメンバーが地域の人材をキャッチしながら、発表の場につないでいくという形になってきている。特技を持つ人たちだけではなく、地道な活動を支えるボランティアも人材として必要だと考え、そちらも着目して活動していくことを確認した。

（情報部会）

28年度のアンケート調査に引き続き、下宿自治会と関わりをもっている。新規のモデル地区選定では集合住宅を考えている。年度が変わったということで、新たな学生に関わってもらっている半面、進級のために勉学の関係上活動に関われなくなってしまった人もいる。

情報部会が、他の部会をリードする形で、SNS を活用するということを共有した。

7月には、FB の安全な活用法について検討している。

集合住宅のアンケートについては、手に取って見てもらいたく、学生の協力により 4 コマ漫画をつくって人とのつながりを意識してもらいながら回答してもらう取り組みをしている。

8月には集合住宅へのアンケートと下宿自治会主催の夕涼み会への協力をしている。

(居場所づくり部会)

6月には、サロン立ち上げ講座に協力していただいた。9月にも実施予定でその企画確認を行なった。

7月には、ほっとハウスみどりの夏祭りへの参加、協力を得た。

「居場所づくり実践の手引き」については、よってらっしゃいのメンバーによる活動体験や活動の写真の提示の協力を得た。コラムは、活動した人の声を掲載している。

「手引き」を活用して、部会員の協力によりサロン立ち上げ講座を開催した。

(3部会合同の取り組み)

9月 13 日に、3部会合同の取り組みについて検討している。

いつもの活動に新たな仕掛けが加わって、3部会が合同で何か取り組めれば、活動に幅が出来るのではないかと考えている。例えば、居場所を使って人材を募集することや、FB を活用して PR することなどについて検討している。こうした取り組みを行なうことで活動の認知度がアップし、参加者や協力者が増えていくのではと考えている。

委員：サロン立ち上げ講座は、JCOM の3分間程度のニュースに取り上げられた。自発的に既に活動に取り組んでいる方もおり、参考にしたいので参加したとのお話をいただいた。

よってらっしゃいの活動を実施するために、この1年間（昨年9月から8月まで）の集計では、全部で47回開催し、大人の参加者が693名、子どもは312名、合計で1,005名となった。

また、月1回は出前講座（特別行事）を行っている。管理栄養士の話や田無警察署員からの振り込め詐欺の話などを行なった。

副委員長：サロン立ち上げ講座への参加者数は。

委員：10名程度だった。

副委員長：よってらっしゃいの参加者は、複数回参加している人もいるか。

委員：社協や地域包括支援センターの紹介で参加している人もいて、2、3回参加している人もいる。

副委員長：毎月の活動への参加も20名程度あるということで、予算はどうしているのか。

委員：社協のアドバイスにより、市の助成金を受けて取り組んでおり、ある程度ゆとりをもって運営が出来ている。参加者やスタッフへ行事保険がかけられているので、安心感がある。

副委員長：参加者にリピーターはいるか。

委員：リピーターはいるが、1回で来なくなる方もいる。地域包括支援センターや地域福祉コーディネーターが利用者をお連れいただくこともある。定着するまでは、工夫が必要だと考えている。放っておくと数が減っていく。

副委員長：この手引きは大変よく出来ており、読ませる資料となっている。

委員：原稿はスタッフが書いているが、編集は社協職員がしている。そういった意味で、社協の役割は、こうしたところにも出ていると思う。単に手放していくのではなく、社協は社協なりのノウハウもあるので、よいものをつくるためにはスタッフと社協職員との連携が今後も必要となる。

副委員長：Actionに、継続してサロンを運営するための方法をマニュアルに追加するとあるが、来年、これを改訂するか。

委員：その予定である。

4. 第四次西東京市地域福祉活動計画 策定委員会について

○事務局より説明がある。

事務局：13名の策定委員でスタートした。アンケートを実施している。対象は、社協の会員、サービス利用者、協力者などで1500件を抽出して実施している。

また、地区懇談会を市と連携しながら実施する予定。今年度はニーズ把握をし、来年度、計画策定を本格的に行う。また、社協事業の実施体制も含めた計画とする予定である。

5. 今後のタイムスケジュールについて

事務局：後日、日程調整を行い決める。

副委員長：これで終了する。